**教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。**

**エペソ人への手紙一章二三節**

# 2016（28）年　週　　報

**8月7日**

聖言

「思い煩いを主に委ねる」　**第１聖日**

**第 3467 号**

**あなたがたの思い煩いを一切神に委ねなさい。神があなたがたの事を心配してくださるからです。ペテロ第１　5:7**

主の弟子となる⑭

第二課　バプテスマ――次のステップ

バプテスマは、クリスチャンのしるしであり、キリストへの服従を明白にした人は、できる限り速やかにバプテスマを授けられる必要があります。少なくとも、初代教会のクリスチャンたちはそう信じ、信仰の告白に基づいてバプテスマを施しました。議論の多いバプテスマという主題から移る前に、バプテスマは決して神の教会における生活と切り離して扱うことはできないという点を補足しておきたいと思います。バプテスマは教会への入り口です。　これは、ユダヤ社会やイスラム社会で誰かがバプテスマを受ける時、非常にはっきり見受けられることです。イエスを信じるだけならどんなに信じてもかまいません。誰も驚きうろたえる」こともありません。しかしバプテスマを受けるというルビコン川を渡る決意をした途端、屈辱的言動が飛び交い、バプテスマを志願した人は家から追い出され、相続権をうばわれ、その人のための埋葬の儀が行われます。バプテスマは必然的に人々を一つにします。バプテスマが、他の人も繋ぎ合わされているキリスト導きます。ですから、バプテスマが、他の人も繋ぎ合わされているキリストに導きます。ですから、バプテスマは神の教会の一員とされているという決意を持っていない人に執り行ってはなりません。これがペンテコステの日に起こったことなのです。ペテロの説教に応答した人々はバプテスマを受け、教会に加えられました。」

（C-BTE主の弟子より）


イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師　山本　稔〒653-0812　兵庫県神戸市長田区長田町１丁目２番６号

電話：ＦＡＸ　（078）691-1419　郵便口座番号 01170-3-20374

http://jchec.org/

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp　メール　ｍ７－ｉｎｏｒｕ@ｅｚｗｅｂ．ｎｅ．ｊｐ

二〇一六年七月三一日午前一〇時　礼拝　大島善直牧師

テーマ：今こそ重荷を負い合う世界を目指す

主　題：「御霊のために種を蒔」ガラテヤ六ノ一〇）

「自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。」（ガラテヤ六ノ八）

〈聖書翻訳比較ノート〉

【口語訳】すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまく者は、霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。

【新共同訳】自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。

【NKJV】 For he who sows to his flesh will of the flesh reap corruption, but he who sows to the Spirit will of the Spirit reap everlasting life.

釈義　新約1、歴史書　四福音書　共観福音書　マタイ、マルコ、ルカ第四福音書　ヨハネ　使徒行伝　使徒の働き

2、教訓書　教理書簡　ローマ　Ⅰコリント、Ⅱコリント、ガラテヤ　獄中書簡　再臨書　牧会書簡　公同書簡

3、預言書　黙示録

4、

1、入院し手術されました、山本　稔牧師の神による癒しを切に求めてやみません。

2、七月一七日の聖日礼拝は、「御霊によって歩みなさい」（ガラテヤ五ノ一六～二六）の御言葉によって、礼拝をおささげしました。

3、本日は「御霊のために種を蒔く」（ガラテヤ六ノ一～一〇）みことばによって、奨励させていただきます。

種まきのお話は、聖書にたくさん書いてあります。イエス様のお話の中にも有名なたとえ話があります。「種を蒔く通りです。フランスの画家ミレーの絵は、大変有名で、皆様も観られたことがあると思います。「晩鐘」に心やじんとしみるものを感じられたことがあると思います。「晩鐘」は、夫婦の蒔き畑仕事、きっと、畑を耕し、一日の終わった夕方を迎えました。「晩鐘」を作り、教会の鐘いが一日の終わった夕方を迎えました。「晩鐘」を作り、教会の鐘の音を聞いて、遠くから聞こえてくる一日一日の姿を揃って、仕事を祈り確認し、今日の自分で神の御守りを揃って、神様に感謝をさせて、農夫は何ものを蒔くのであり、豊かに刈りとりをすることでしょう。種まきをするガラテヤ人たちは、他人のために蒔くのです。「兄弟たちよ」とあなたがたに書き送るのです。食べさせるために種を蒔くのです。「時期が来て、収穫する種が成長して、種まき例えの著者パウロは、「思い違いをしてはいけません」と言っています。最初にパウロは、ガラテヤの教会に、間違った信仰を持っている人やパウロの教えに反対する人が、「何を、気楽なことを言っているのでしょう。ほんとうは、聖徒たちの重荷を負い合う、キリストの律法をまっとうしなさい」と強くしかるべきの話です。七節から9節が、最初に申しました、種まき奨めています。「神は侮られるような方ではありません」と言っています。ガラテヤ六ノ一六～二六は、自分を誇らず、謙遜して、「互いの重荷を負い合う、キリストの律法をまっとうしなさい」と奨めています。「神は侮られるようなことは、御霊に満たされた人」でなければ、「正して」あげることはできません。そういう人は、「自分自身が、誘惑に陥らないように」気をつけなければ、なりません。

る」は、“相手を軽く見てばかにする。みくびる”と岩5、波国語辞典に書いてありました。これは、人間同士のことがらですが、神に対して「侮る」とはどういうことでしょうか？神の御心ではないと知りながら、繰り返し、気ままな生活をしていることでしょう。あなたは、悔い改めなさいと示されたら、すぐに悔い改めなければなりません。毎週教会で、礼拝をささげなさいと聞いたなら、実行しなければなりません。神に、時間も、身も、金銭もささげなさいとしめされたなら、ささげなくてはなりません。人を赦しなさいと示されたなら、お詫びをして、赦さなければなりません。性格を愛のある人に変えるべきだと示されたなら、祈って実行しなければなりません。五つほどをあげましたが、もっと、たくさんあると思います。いつか、そうしようでは、だめです。神は愛であるから、しばらく、大目に見て下さるでしょう。それはだめです。間に合いません。あなたの時は長くないからです。ルカ一二ノ一六～二十一を読みましょう！神は侮られるお方ではありません。

1、人は種を蒔けば、その刈り取りをすることになる（七節の終わり）。農夫は、良い種を蒔いて、良い実を結んだ刈り取りをしようと致します。人生は、何のために、どんな種を蒔くかということです。私の父が生きていましたた時に、牧師でしたが、ある人から来た手紙を私に見せたことがあります。内容は「大嶋先生、かつて、先生があんなに真剣にお奨め下さいましたのに、私は、生活を改めず、信仰もしないで、勝手な人生を歩んできました。今、薄暗いベッドで、間もなく死のうとしています。これは、私が蒔いた種の結果です。私は、それを、刈り取るだけです。先生、すみません。」と書いてありました。手紙を渡した父の顔は、口を一文字に閉じ、唇は紫色、顎が震え、目に涙が溢れていました。彼をお導きすることが主よ、この僕をお許しください。あなたの時は長くないからできません。」と神に祈っていたのでしょう。そして私に、「遅いんだ、もう遅いのだ」と言いました。

2、肉の為に蒔く者は、肉から滅びを刈り取る。（八節初め）肉の為に種を蒔くのは、肉の欲望を満足させる生き方（五ノ六）です。肉の行いは五ノ一九、二〇。人はこの生き方を好みます。

3、御霊の為に蒔く者は、御霊から、永遠の命を刈り取る。（八節の終わり）ご一緒に読みましょう！八節全体を！御霊の為に、イエス様のために、悲しんでいる人のために、愛する人の救いのために、貧しい人のために、苦しんでいる人のために、今から種を蒔きましょう！御霊から「永遠の命を」刈り取ります。人ではなく、永遠の命、真理、永遠の救いと希望、喜び、これを、あなたが刈り取るのです。ハレルヤ。九、一〇節、善を行いましょう！、あきらめずに。失望せずに、時期が来て、刈り取ります。機会あるたびに、信仰の家族の人たちに、善をおこないましょう！重荷を負うことは、世界に通じるのです。